

日本理学療法士協会雑誌 発刊の趣旨説明

この度、公益社団法人日本理学療法士協会（以下、協会）は、すでに発刊している学術雑誌「理学療法学」とは方向性がまったく異なる新しい雑誌「日本理学療法士協会雑誌 Up to Date」を発刊いたします。雑誌名の由来は、若い会員には理学療法を進めていくための新たな知識を、経験を積んだ会員には既存の知識をアップデートできるような内容になるよう、そのような思いを込めた雑誌名にいたしました。

理学療法士は、医療職の中でも人に直接触れる時間が長く、人との関わりを大切にする仕事です。そこには、理学療法士の人間性が現れる、様々な人間模様があるはずです。そのため、学術的な内容は「理学療法学」に、臨床的な内容をこの新規発刊の雑誌が担います。毎号掲載する特集記事は、臨床で生かせる内容に特化した、障がいや疾患に対する理学療法の進め方について、その領域で活躍している比較的若い会員に執筆していただきます。また、会員からの投稿記事は、症例報告をはじめ、所属先や地域で取り組んでいる理学療法の実践報告、会員の趣味の紹介、先輩会員が日々考えていること、理学療法士としてこれまで頑張ってきたことや、専門性を高めるために努力してきたことなども掲載します。斉藤秀之協会長は、これから理学療法士協会を背負ってゆく若い会員が読んで面白く感じてもらえるような、経験を積んだ会員においては今さら聞けないことを知る良い機会になるような、人間味あふれる雑誌になることを期待されています。

継続して掲載する記事の1つとして、島嶼に勤務している会員の活動に焦点をあて、島嶼の理学療法について執筆していただきます。島嶼での仕事は、母子保健から終末期まで、市中病院に勤務している会員とは比較にならないくらい多くの仕事を任されています。この雑誌を介して、島嶼で働くことの楽しさや大変なことなどを知ってもらい、ライフステージを島嶼で過ごす選択肢もあることを紹介します。

若い人の活字離れが指摘されて久しいですが、これは本会員も同じです。雑誌は、手に取って、読んでもらわなければ雑誌の存在意義はありません。そのため、雑誌の体裁は、紙媒体ではなく、若い会員がスマホ世代ということを鑑みて、図やイラスト、動画なども閲覧できる HTML 形式のオンライン雑誌にする予定です。

会員が、この雑誌を通じて、国民の保健医療福祉に寄与する理学療法士という仕事に誇りをもって社会に貢献できる、そのような雑誌を目指します。

令和4年11月16日

日本理学療法士協会雑誌 Up to Date

編集部会長 内田賢一